

電力総連



©(公財) オイスカ
ヌエバビスカヤ植林プロジェクト



©(公社) 日本ユネスコ協会連盟
世界寺子屋運動
(ネパール・ルンビニ寺子屋プロジェクト)



©(特非) 日本国際ボランティアセンター
(JVC)
農村の自然資源管理について村人と話し合うJVCのスタッフ



あなたの優しさで 世界中に笑顔と夢を!

2019
ふれあいカンパ
展開中!



©(公財) オイスカ
「子供の森」計画



©(特非) 国連 UNHCR 協会
難民の子供たちへの教育支援プロジェクト
(ウガンダの難民住居地内小学校で授業を受ける子供たち)



©(公財) 国際労働財団 (JILAF)
児童労働撲滅のための
ネパール非正規学校プロジェクト



©(一社) 協力隊を育てる会
小さなハートプロジェクト
(ウガンダで活動中の吉原伸彦隊員と子ども達)



©(公財) ジョイセフ
ベトナム助産師支援



支援金の贈呈先、支援の内容など
詳しくはホームページをご覧ください。

電力総連ふれあいプロジェクト

検索



電力総連は8月から10月末までを
重点月間と位置づけ取り組んでいます

大きく育つあなたのココロ

ふれあいカンパ



電力総連ふれあいプロジェクト

『ふれあいカンパ』から支援しているNGO団体

日本ユネスコ協会連盟

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、「UNESCO憲章」の理念を実践するため、第二次世界大戦後の1947年に設立された民間のNGOであり、字の読み書きのできない方々や学校に通うことのできない子どもたちへの教育支援として「世界寺子屋運動」を実施しています。

ネパールの成人識字率は約60%と低く、女性ではさらに読み書きができる人が少ないのが現状です。小学校の中途退学率が非常に高いことも問題となっています。日本ユネスコ協会連盟では、ネパール南部のルンビニ周辺や首都圏のカトマンズ近郊に住民

世界寺子屋運動(ネパール寺子屋プロジェクト)

によって運営される教育機関(寺子屋)を設置し、成人女性や未就学児などを対象とした教育支援を実施しています。識字クラスではネパール語を学ぶだけでなく、公衆衛生や女性の権利などについても学んでいます。未就学児や中途退学した子どもたち(特にカーストの低い「ダリット」、イスラム教徒および女子)を対象とした小学校クラスでは、3年間のクラス修了後には小中学校に編入することができます。2018年度には、2,700人以上が識字クラスや小学校クラスで学ぶことができました

公益財団法人オイスカ(OISCA)

「子供の森」計画/ヌエバビスカヤ植林プロジェクト

「子供の森」計画

「子供の森」計画は、次代の主役である子どもたち参加による学校単位の森づくり運動です。子どもたち自身が学校の敷地や周辺地域に苗木を植えていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切に作る気持ち」を養いながら、地球緑化を進めることを目的としています。1991年に始まったこのプログラムには、2018年3月末現在36の国と地域5,080校が参加しています。2018年度に電力総連は、フィリピン北部ヌエバビスカヤ州の18校を中心に支援しました。

ヌエバビスカヤ植林プロジェクト

ヌエバビスカヤ州は1960年代から急速に進んだ森林伐採によりはげ山化が進んだ地域で、乾季には干害、雨季には土壌流失を引き起こし、麓で農業を営む地域住民の生活を脅かしています。この状況を改善するため1993年にヌエバビスカヤ植林プロジェクトを立ち上げ、540ヘクタールを超える生物多様性豊かな森づくりに取り組んでいます。電力総連では、このプロジェクトを1995年から支援しており、金銭面の支援だけでなく、組合員を派遣して地元の方々と一緒に植林活動を行うことで、自立意識の高揚等にも寄与しています。

国際労働財団(JILAF)

児童労働撲滅のためのネパール ブリッジスクールプロジェクト

公益財団法人国際労働財団(JILAF)は、開発途上国における自由で民主的な労働運動の発展を促進するため、1989年に連合によって設立されたNGOでありNPOです。1996年から、社会開発活動の一環として、ネパールでブリッジスクールプロジェクトを展開してきました。本プロジェクトは、現地のナショナルセンターであるネパール労働組合会議(NTUC)と協働で、親が貧困等で児童労働に従事せざるを得ない子どもたちを対象に、3年間の基礎教育(無償)を提供するものです。

児童労働の主な原因には、貧困に加えて教育の重要性に対する親の理解不足もあります。本プロジェクトではNTUCおよび学校関係者が、児童労働従事者の親や地域の

人々に教育の重要性を訴える啓発活動も実施しており、近年ブリッジスクールへの入学希望者は増加しています。

現在ネパール国内にブリッジスクールが9校あり、450名の子どもたちが通学しています。3年間の学習終了後、公立学校に編入することを目標としており、これまでの学校卒業生約8,500名のうち8割以上が公立学校へ編入し、中には大学へ進学した生徒や、JILAFブリッジスクールの教師になった卒業生もいます。

電力総連は2008年度から本プロジェクト財源の一部を支援し、制服や文具の充実に役立てています。

ジョイセフ

ベトナムでの助産師教育支援

世界で毎日約830人(年間約30万人)の女性が妊娠や出産が原因で命を失う状況を改善するために、日本生まれの国際協力NGOジョイセフは、アジアやアフリカで保健サービスの向上や女性のエンパワーメントにつながる活動を続けています。

ベトナムでは、国全体では母子保健の指標が改善されてきている一方で、都市と農村・遠隔地の間で保健医療サービスの格差が拡大し続けています。ジョイセフは、農村・遠隔

地の女性と妊産婦が質の良い保健医療サービスを受けることができるように、女性の生涯にわたる健康を守る上で大切な役割を担う村の助産師に技能研修を行います。助産師の能力強化を通じて、ベトナムの女性と母子の命と健康を守り、母子保健の向上に取り組んでいます。

協力隊を育てる会

小さなハートプロジェクト

JICAが実施する青年海外協力隊は、約70ヶ国の開発途上国で現地の人々と共に暮らし、学校や病院、行政機関などに属して、技術指導を中心とした協力活動を行っています。

「小さなハートプロジェクト」は、隊員が協力活動以外の主に現地の人々の生活・学習環境改善のために自主的に行うプロジェクトを支援するものです。協力隊を育てる会は、本プロジェクトや活動現場の視察、企業・自治体への協力隊参加制度の設置や帰国後の

採用の働きかけ等を通じ、協力隊事業の理解促進や隊員支援を行っています。

電力総連は、1994年以降、学校校舎の補修、学校図書室の拡充、病院のトイレの修理、地域の共同井戸の設置など、65件のプロジェクトを支援してきました。2018年度はマラウイで学校校舎の屋根を補修、ケニアでHIV陽性の子供・孤児を支援するための養鶏施設を支援し、子供たちが学習できるように、学習を継続できるように支援しました。

国連UNHCR協会

難民の子どもたちへの教育支援プロジェクト

国連UNHCR協会は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の公式支援窓口として、広報・募金活動を行っています。UNHCRは1950年に設立された国連の難民支援機関で、1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。135か国で約12,000人の職員が人道援助活動を行っています。

電力総連は、UNHCRが実施する、難民の子どもたちへの教育支援プロジェクトを支

援しています。厳しい避難生活を送る子どもたちにとって、教育は生きる希望となります。

また、初等教育のみならず、中等・高等教育や職業訓練を受けることは、将来自立した生活を送るためにも欠かせない重要な支援です。教室の増設や修繕、文房具や制服、教材の支給、教育の養成など、教育環境を改善するためのさまざまな事業に役立てられています。

日本国際ボランティアセンター(JVC)

ラオス農村の村人の暮らしを守る活動

日本国際ボランティアセンター(JVC)は、1980年のインドシナ難民の救援を機に設立され、現在は、アジア・アフリカ・中東などで支援活動を行っている国際協力NGOです。

ラオスでは、いまも人口の6割を超える人々が農村で暮らしています。近年、ダムや鉱山開発、ゴムやユーカリなどのプランテーションの設置が非常に勢いで進められ、村人の土地が何の補償もなく収用されたり、農業や廃棄物の投棄などで環境が破壊され、そ

のくらしが立ち行かなくなる例が頻発しています。JVCは住民や行政担当者に、村人が農地や森林、河川を使う権利が法律で認められていることを研修を通じて知らせ、この権利を主張する際に必要となる土地利用図の作成などを支援しています。これらを通して、村人がこれらの自然資源を主体的に守り、かつ利用できるようになることで、安心して日々の暮らしを営めるように支援しています。